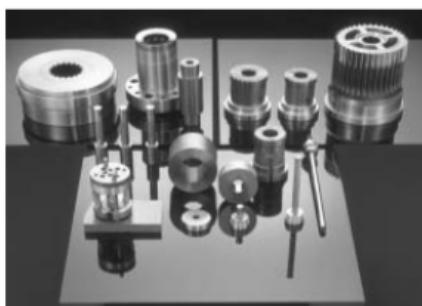


トップインタビュー

代表取締役社長

富士ダイス



圧粉用金型(マグネット製品向け)

久保井恒之氏<後編>

中長期の成長基盤の構築へ

富士ダイス(6167)の久保井恒之代表取締役社長へのインタビューを前編(9月28日付掲載)に続いて紹介する。

—新中期経営計画では4

「次世代自動車とはEV(電

つの重要施策を挙げているが、そのうちの“次世代自動車”は投資テーマとしても注目度が高い。

気自動車)やHV(ハイブリッド車)などのこと。特に構成部品として重要視される

『モーター』『電池』『磁性材料(マグネット)』の部分は当社の製品が役立つ。具体的に、次世代自動車の駆動力として欠かせないモーターには電磁鋼板を積層して作るモーターコアという部分があるが、この鉄板を打ち抜く金型、超硬材料の需要がかなり増えており、実際に主要顧客からも引き合いを頂いている。こ

うした製品の拡販や横展開に注力していく」

—中計以降の長期目標ではどのようなビジョンを描いているか。

「超硬合金自体は各社で開発が進み、ある程度飽和状態にある。しかし、材料設計の部分はまだまだ改良の余地があり、今後も積極的に取り組みたい。これは個人の意見だが……。これまでどちらかといえれば生産能力の維持と増強に投資費用が割かれていた。

「自己資本比率約80%と財務基盤が非常に安定している。今回のコロナ禍のような有事にも強い耐性があり、創業以来墨字経営を維持している。そういう点では投資家の方にとっても安心感のある投資対象として見てもらえるのではないか。守りを固めるだけではなく、今後は潤沢な手元資金を“攻めの戦略”にも向



電池用金型

の業務提携やM&Aなども前向きに検討していく

—最後に、投資家の皆様へメッセージを。

「当社は社名通り線材の引き抜きを行うダイスという工具が原点。材料面や加工面での対応力を強みに様々な製品を開発し、産業分野を広げてきた。地味で堅い会社という印象があると思うが、今後も投資家の方に注目してもらえるような新しい製品・技術を開発し、期待に応えていく」

「労働集約型の業態でいかに省力化・自動化を進めていくかも今後の課題の1つ。受注生産の仕組みの中でどこまでできるのか、かなりハードルは高いが、既に一部でトラブルも行っている。これをリアルも行っている。これをどんどん発展させ、海外メーカーにも対抗できるようなコスト競争力をつけていく必要がある。また、将来を見据え、自動車関係以外にも事業領域を広げていく考え。そのため